●呉共済病院地域医療連携室広報誌●NO.９２　2022令和４年９月

TOPICS

- ◆「「皮下連続式グルコース測定」検査について」　診療部長　代謝内科部長　岡村　緑
- ◆「中央手術室のご紹介」　手術看護認定看護師　梅木のぞみ
- ◆「老人看護専門看護師について」　老人看護専門看護師　加藤　愛子
- ◆「地域医療連携室NEWS」

病院の理念

高度・良質の医療　最善の奉仕
研鑽と協調　地域医療の支援

基本方針

一　良質で適切な医療の提供に努めます
二　患者さんの権利を尊重し患者さんの満足・安心・信頼を追求します
三　新しい知識と技術を積極的に習得し常に質の高い先進的医療を行います
四　地域の中核病院として地域社会の要請に応えうる医療を提供します
五　職員が意欲をもって働ける病院をめざします
六　次代を担う有能な医療従事者の育成をめざします
七　専門的ながん医療の提供に努めます
八　国内での医療救護活動に積極的に参加します

呉共済病院は、県指定のがん診療連携拠点病院です。
がん検診などでがんの疑いがあると診断された患者さんの精密検査や治療を行っています。是非ご紹介ください。

地域医療連携室　NEWS

	2022年6月	2022年7月	2022年度累計
紹介患者数《初再診全て》	1034	789	3677
逆紹介患者数	1038	869	3751
紹介率	65.0%	59.9%	63.9%

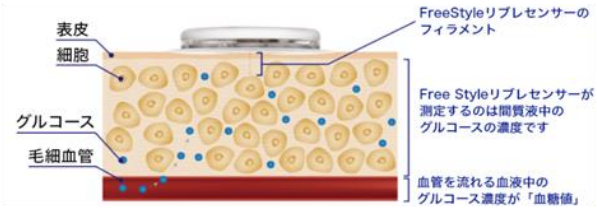
■発行責任者：国家公務員共済組合連合会　呉共済病院　病院長　寺坂　薫
〒737-8505　広島県呉市西中央２丁目３番２８号　（代表）TEL　0823(22)2111　（連携室）TEL　0823(27)5530　FAX　0823(22)2116

「皮下連続式グルコース測定」検査について

診療部長　代謝内科部長　岡村 緑

2016年12月1日にアボット社から「FreeStyleリブレPro(持続血糖モニタリング：CGM)」が発売され、保険適応となりました。

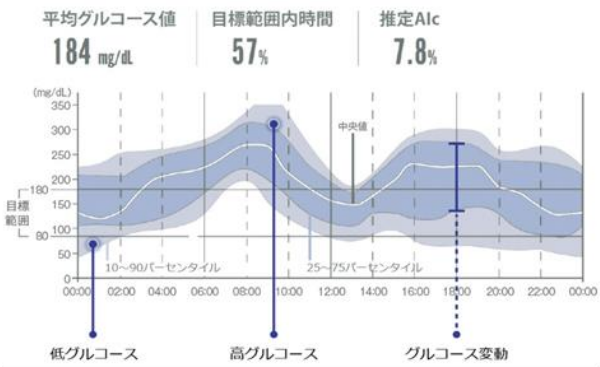
「FreeStyleリブレPro」は、500円硬貨サイズのセンサーを上腕に穿刺装着することで、皮下に留置された極細のフィラメントが組織間質液中のグルコース値を持続的に測定します。センサーは15分ごとに自動でグルコース値を記録し、最大14日分、1340回の測定データを500円硬貨サイズのセンサー内に保存します。患者はセンサーを上腕に装着するだけで、操作の必要はありません。そのため患者や医療従事者にとってCGM(Continuous Glucose Monitoring)による血糖値プロファイルの記録を手軽に実施することができるようになりました。



「FreeStyleリブレ-アボット糖尿病関連製品サイト」より

センサーを装着したまま入浴、シャワー、水泳も可能です。しかし、サウナは避ける必要があります。また、X線・MRI・CTスキャンの検査が、システム性能にどのような影響を与えるかは評価されていません。センサーを取り外してから検査を受ける必要があります。

装着、取り外しはスタッフが行います。装置が外れて検査ができなくなった症例としては、服の着脱時にひっかけて外れてしまった症例や、夏の暑い時期は汗をかくため痒みが出たり、はがれてしまった症例を経験しています。半袖で装置を付けているのが見えるのがいやといわれる方もおられ、少し涼しい時候に検査をすることが多いです。



夜間の低血糖などブラックボックスとなっていた部分まで見えるようになるため、より安全かつ良好な血糖コントロールを目標にできます。リアルタイムで血糖値は分かりませんが、２週間後にまとめて結果が分かるタイプです。２週間分のデータを後から解析するレトロスペクティブのCGMですが、とにかく手軽にCGMを行えることが最大の利点です。

主に外来患者を対象に使用しています。センサーに記録されたデータは専用ソフトで解析しAmbulatory Glucose Profile(AGP)というレポートを作成し、グルコース値の日内変動や日差変動を詳細に評価できます。

「FreeStyleリブレPro」の診療報酬上の適応は従来のCGMと同様に、「血糖プロファイルの把握が必要な１型糖尿病患者・至適インスリン用量の決定が必要な糖尿病患者・低血糖を繰り返す２型糖尿病患者」とされています。施設基準は「①糖尿病の治療に関し、専門の知識及び少なくとも５年以上の経験を有する常勤の医師が２名以上配置されていること②持続皮下インスリン注入療法を行っている保険医療機関であること」を満たす必要があります。

中央手術室のご紹介

手術看護認定看護師　梅木のぞみ

当手術室は７部屋あり、2021年度の手術件数は2569件でした。そのうち279件は当日緊急手術で全体の10.9%を占めています。看護スタッフは22名で、24時間・365日対応できるよう体制を整えています。

当院では様々な疾患、幅広い年齢層の患者さんが手術を受けられています。どんな手術でも患者さんにとっては大きな出来事であり、様々な期待や不安を抱えつつ手術にのぞまれます。手術看護と聞くと手術中のみのかかわりと思われがちですが、患者さん一人ひとりに合わせた医療・看護を提供するために、術前・術中・術後の周術期を通じて多職種・他部門と共に日々活動しています。

今後の展望

令和4年度診療報酬改定において、「術後疼痛管理チーム加算」が認められました。対象患者は「全身麻酔を伴う手術を行った患者であって、手術後において硬膜外局所麻酔剤の持続注入、神経ブロックにおける麻酔剤の持続注入又は静脈内への麻薬の持続注入を行っているもの」となっており、麻酔に従事する医師を中心とした多職種（薬剤師、看護師、臨床工学技士）により構成される術後疼痛管理チームが質の高い疼痛管理を実施するもので、今後当院でも導入予定です。

手術室、麻酔科、病棟など部署の垣根を超え、気軽に意見交換ができる機会を設けることで現場の意見を定期的に組み上げ相談しあい、良好な術後疼痛管理により患者さんの安全・安心と医療の質を高める役割を果たしたいと考えています。

2005年に手術看護認定看護師が誕生しました。全国で699名が活動しています。
広島県では16名、うち呉市では2018年より2名が活躍しています。
相談や実践を通じて手術室のことのみならず、医療ニーズの変化に対応できる人材を皆様と共に育成していきたいと考えています。
勉強会のご依頼、ご不明な点などございましたら、ぜひ遠慮なくお声掛けください。

老人看護専門看護師について

老人看護専門看護師　加藤 愛子

はじめまして。2021年に老人看護専門看護師を取得いたしました、加藤愛子です。

１．専門看護師とは

専門看護師は日本看護協会により認定された資格で、「実践」「相談」「調整」「倫理調整」「教育」「研究」の６つ役割が期待されています。専門看護師は平成８年に発足し平成24年には14分野まで増え、現在では2,944人となりました。老人看護分野は平成14年に認定され、令和３年12月までに226名まで増え、広島県では私を含めて３名います。世界に類をみない速さで進む日本の高齢社会に対し、老人看護専門看護師数は十分とはいえません。老人看護専門看護師の活動の場は、一般病院、療養病院、訪問看護ステーション、特別養護老人ホーム、看護系大学の教員など多岐に渡っていますが、専門看護師数が十分といえない中、各々の老人看護専門看護師は各所属施設において孤軍奮闘しながら活動しています。

２．老人看護専門看護師の役割とは

高齢者が入院・入所する施設や在宅において、認知症や嚥下障害などをはじめとする複雑な健康問題を持つ高齢者のQOLを向上させるためには、水準の高い看護を提供することが必要です。しかし、高齢者の特徴を踏まえることなく、病気の治療が優先され、病気をもちながら生活している高齢者の“生活”や“思い”はなおざりにされやすいのが現状です。高齢者にとっては、病気の治療とともに生活の質を重視していくことが重要になります。高齢者独自の考え方や、生活様式、家族背景や時代背景も踏まえ、活動に活かしていくことで、看護の質を保障し、ご本人やご家族のQOLの向上に貢献していく役割が求められています。具体的な活動としては、健康な状態での生活を維持するための予防活動や生活環境の整備や身体・こころの老化、認知症、せん妄や低栄養・褥瘡、脱水などに対する介入などです。そして、いずれ訪れる別れが高齢者にとっても、ご家族にとっても納得のいくものとなるような“終末期ケア（エンドオブライフケア）”の確立が重要な役割になります。

３．どのような活動をしているのか

当院の入院患者の約６～７割は高齢者です。2020年度より、認知症ケアサポートチームの一員として、認知症をもつ入院患者さんのケアに関わらせていただいております。認知症をもつ患者さんが安心できる環境で必要な治療を受けることができるよう、また退院後も地域のなかでご本人の望む暮らしを継続することができるよう、多職種と協働しながら支援に努めています。今現在は病院内の活動にとどまっていますが、今後は地域の皆様とともに活動し、呉市の皆様のために頑張って行きたいと思っております。
資格を取得したばかりで、６つの役割が十分果たせていない現状ですが、活動を通じて成長していけるように頑張りますので、研修会等お気軽にお声掛け下さい。